

## 調査結果の概要

アンケート調査地域	花川北地区	707戸
	花川南地区	1,106戸
	樽川・緑苑台地区	201戸
調査期間	5月末～7月上旬(休日を除く40日間)	
調査数(無作為抽出)	2,014戸数	
調査方法	戸別訪問質問紙留置法	
回答数	1,151戸数(人)	
回答率	57.1%	
記号の意味	N:回答者総数(または分類別の回答者数)	
	SA:1つの回答ができる質問	
	MA:2つ以上の回答ができる質問	

### アンケート調査目的

- ・ 増加傾向にある「粗大ごみ」の排出状況調査及び粗大ごみに特化した戸別収集サービスについて調査する。
- ・ 現在のごみ収集方式とごみ処理費用負担について調査する。

### 調査結果の概要

- ・ 現在のステーション収集方式がよいとの回答が約6割弱であるが、共同住宅専用ステーションや戸別収集などをはじめとする何らかの改善を求める回答が約4割以上を示している。
- ・ 粗大ごみを処分したことがあるとの回答が7割以上あり、そのうちごみとして排出したことがあるとの回答が約9割近くである。
- ・ 粗大ごみを処分した理由としては、壊れたためとの回答が約6割以上である。また、古くなったためとの回答が約3割、買い替えたためとの回答が約2割近くである。
- ・ 粗大ごみの戸別収集を望んでいるとの回答が全体の3分の1以上あり、家庭ごみ全体の場合と比較すると2倍以上である。
- ・ 粗大ごみの戸別収集を望む理由として、処理できない迷惑ごみの不法投棄への懸念が約7割と多く、次に粗大ごみのステーションまでの排出困難が約4割である。
- ・ ごみ処理費用の負担は、全て税金で賄うのが良いとの回答が約7割であり、その理由としては受益者負担による不法投棄の増加への懸念との回

答が一番多く約5割以上を示している。

#### 今後の対応

高齢化社会を迎える中で、戸別収集を望む声が着実に増えてくるものと考えられ、特に粗大ごみの戸別収集サービスはさらに具体的な検討を進める必要があるものと判断し、今後はより幅広い意見集約を行ないながら、粗大ごみの取り扱い方針を決定する。